

# 『「聴覚障害」誌総目次』に見る聴覚障害教育の変遷

## 第11分科会

千葉商科大学・貞静学園短期大学 非常勤講師  
元筑波大学附属聴覚特別支援学校 竹村 茂

【概要】「聴覚障害」誌を発行していた聾教育研究会は、「聴覚障害」誌の発行を株式会社ジアース教育新社に移行し、平成26年8月31日をもって会を閉じた。その際、昭和22年6月「聾教育」から平成26年3月「聴覚障害」までの69年間の目次を『「聴覚障害」誌総目次』として刊行した。

本研究は、その目次データを使って聴覚障害教育の変遷を探ったものである。誌名は、「聾教育」「特殊教育」「ろう教育」「聾教育」「聴覚障害」と変遷しているが、その誌名にこだわらず、10年単位（最初の区切りは9年）で区切って、特徴を探った。

【キーワード】「聴覚障害」誌 テキストマイニング 聴覚障害教育 変遷

### 1 はじめに

『「聴覚障害」誌総目次』（以下、「総目次」）は、1946年7月から2014年3月までの756冊の目次を掲載している。（初期の頃は毎月刊行ではない。また、合併号もある。）この69年におよぶ目次データを分析すれば、聴覚障害教育の変遷がたどれるのではないかと考えた。

### 2 方法

「総目次」は、ワープロソフト一太郎で作成された。分析に当たってテキストデータに変換した。共通してカウントできるように、旧字体は新字体、表記の揺れは一般的な形に置き換えた。雑誌名は、データとしてカウントされるのを防ぐために削除した。

以上の作業を行った上で、KH Coderというテキストマイニングのためのフリーソフトウェアで解析した。KH Coderは、どんな言葉が多く出現するか、一緒に出現することが多い言葉のグループは何かなどを解析できる。テキスト全体と10年単位（最初の区切りは9年）で区切ったテキスト [(1)1946-1954、(2)1955-1964、(3)1965-1974、(4)1975-1984、(5)1985-1994、(6)1995-2004、(7)2005-2014]を対象とした。

KH Coderは、奈良先端科学技術大学院大学の茶釜という自然言語処理の辞書を使用しているので、聴覚障害教育に特有な語は「強制抽出す

る語」に指定した。人名や編集後記などは「使用しない語」に指定した。

### 3 頻出語の変遷

#### (1) 手話

「総目次」には、「手真似」という言葉は出て来ない。

「手話」の初出は1964年(昭和39)8月号の「聾教育の場における手話の位置 渡辺繁義」である。本文を読んでもみると1963年(昭和38)9月号「主として中高部の国語指導について 末延誼」から始まった国語教育の論争の中での手話の有用性に関する議論である。これは目次を見るだけでは気付かない。「手話の位置づけの基本方向—末延、渡辺論争に寄す— 中西喜久司」(同年10月号)まで5回の論争が行われている。

聾教育における手話という観点での初出は、1966年(昭和41)1月号「ろう児のコミュニケーションについて—特に手話について— 田上隆司」である。1972年(昭和47)11月号「手話通訳論 伊東雋祐」など、通訳論がこれに続く。

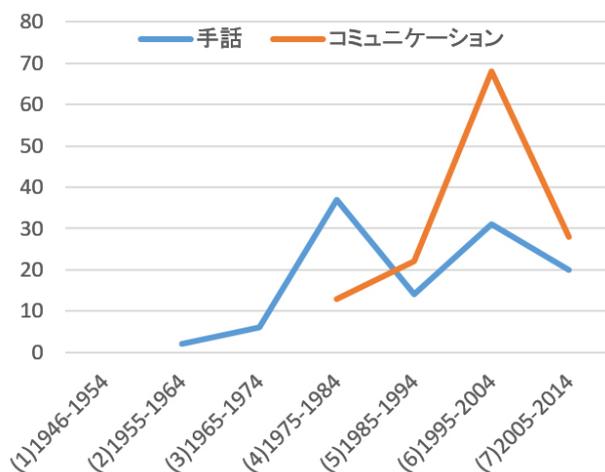
(2)で2、(3)で6、(4)で37、(5)で14、(6)で31、(7)で20、全体で110の出現数である。

#### (2) コミュニケーション

コミュニケーションの初出は、1969年(昭和

44) 10月号「中間期のろう生徒のコミュニケーションの問題(中高部に於ける問題を考える手がかりとして) 上野益雄」である。(3)で1、(4)で21、(5)で28、(6)で68、(7)で28、全体で146の出現数である。

手話とコミュニケーションは同じではないが、聾教育の場では、手話というよりコミュニケーションと言った方が受け入れやすいという傾向が読み取れる。全日本聾教育研究大会でも、「手話」ではなく「コミュニケーション」の分科会が設けられている。

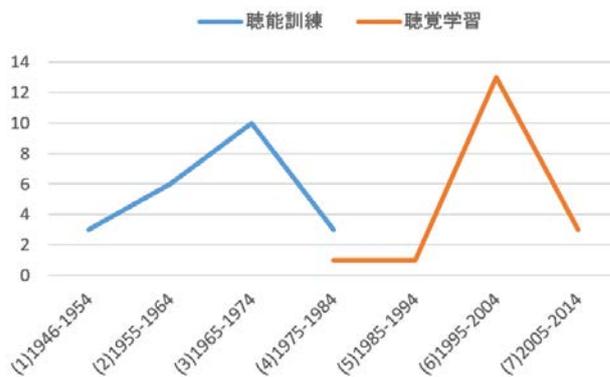


### (3) 聴能訓練と聴覚学習

「聴能訓練」の初出は、1953年(昭和28)「聴能訓練におけるレディネスと個人差」(特殊教育36号)で、1980年(昭和55)の「モスクワの難聴学校とその聴能訓練」が最後である。(1)で3、(2)で6、(3)で10、(4)で3、全体で22の出現数である。

「聴覚学習」の初出は、1977年(昭和52年)3月号で、新刊紹介『聴覚障害と聴覚学習—親と教師のために—』で、Amazonで調べると、D.B.フライ(著)、佐久間章(翻訳)で、1977年2月に出ていることが分かる。

(4)で1、(5)で1、(6)で13、(7)で3、全体で18の出現数である。

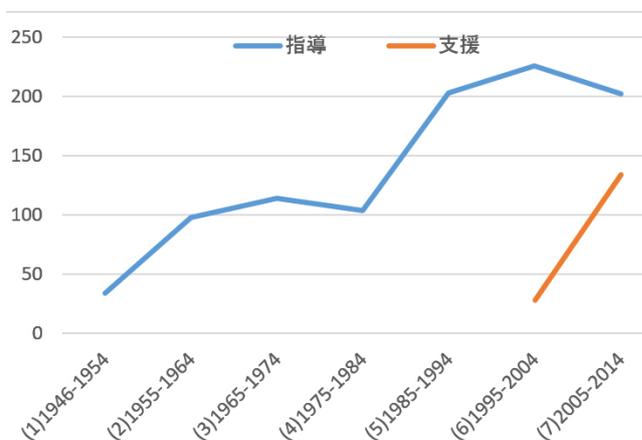


聴覚障害 1994年(平成6年)8月号の「今月の言葉 聴覚学習」(今井秀雄)では、——「聴能訓練」は音楽材(ことばと環境音・楽音など)の要素を系統的に整理したプログラムの学習であり、それからそれに発達の系統の観点が付け加わったものとなった。

「聴能訓練」は音楽材(ことばと環境音・楽音など)の要素を系統的に整理したプログラムの学習であり、それからそれに発達の系統の観点が付け加わったものとなった。——と述べられている。

### (4) 指導と支援

「支援」の初出は、1998年(平成10)8月号「よりよい支援を求めて」であるが、2000年(平成12)1月号の「今月の言葉「支援の立場」と「指導の意図」」が画期になっているのであろう。文部科学省は、2001年(平成13)から「特別支援教育」という呼称を使用している。「支援」は(6)で28、(7)で134。



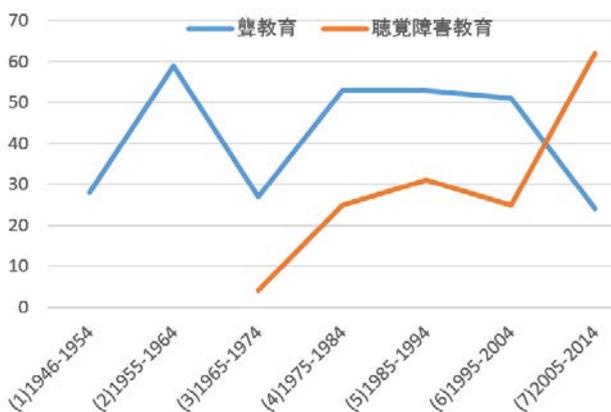
聴覚障害 2000年(平成12)1月号の「今月の言葉 「支援の立場」と「指導の意図」」(宍戸和成)は、——「教師が支援の立場にある」

ということは、子供の主体性や意思を尊重するということが、当然のこととして重要視すべきであるが、これだけでは教育は成立しない。やはり、教師としての「指導の意図」を明確にもたねばならない。——と述べている。

### (5) 聾教育と聴覚障害教育

「聾教育」は、(1)で28、(2)で59、(3)で27、(4)で53、(5)で53、(6)で51、(7)24、全体で295の出現数である。(7)で出現数が減るのは「特別支教育」という語が使われるようになったからであろう。

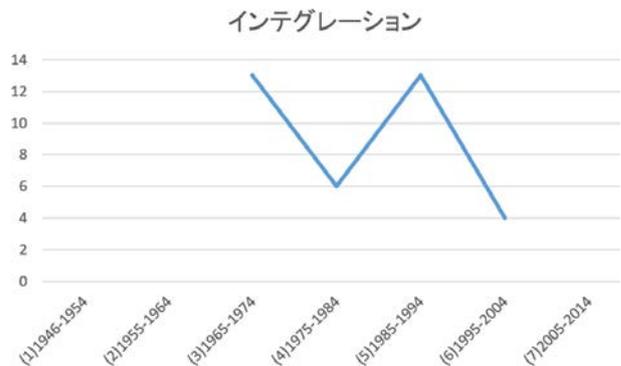
「聴覚障害教育」の初出は、「聾教育」1970年(昭和45年)7月号の「聴覚障害教育福祉協会の発足」についての記事である。翌、1971年(昭和46)4月、誌名が「聾教育」から「聴覚障害」に改められた。「題名の変更について」に、その理由が詳説されている。(1)で0、(2)で0、(3)で4、(4)25で、(5)で31、(6)で25、(7)で62、全体で147の出現数である。



聴覚障害 1971年(昭和46年)4月号の「今月の言葉 題名の変更について」(小畑 修一)では、——“聾”および“聾教育”という言葉の持つ意味が分化して来ていることでもあります。難聴学級の成立等が示すように“聾”および“聾教育”が聴覚障害者とその教育の全てを蔽っていた時代はすでに過ぎております。特にマスコミが先進性をその重要な性格とする以上、社会啓蒙の意味からも“啞”につながる“聾”からの脱却は試みられねばならない。——と述べられている。

### (6) インテグレーション

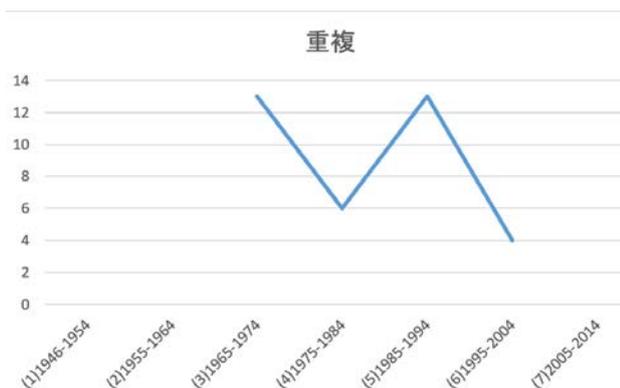
インテグレーションの初出は、1965年(昭和40)8月号、萩原浅五郎の「今月の言葉」である。最後は、2001年(平成13)12月号の「私の意見 インテグレーションあれこれ 馬場顯」である。(3)で13、(4)で6、(5)で13、(6)で4、全体で36の出現数である。思ったより少ない数である。



ろう教育 1965年(昭和40)8月号「今月の言葉 インテグレーション」萩原 浅五郎(文の最後に(萩原)とある)は、——人の生きる世界は、耳あき文明によって支えられた耳あきの世界、唯一つである。昔も今もそして今後も、この地上に如何なる変異が起ろうとも“沈黙の世界”——つんぼの楽園が耳あきの世界にとって変ることはあり得ない。したがって生きとし生ける者としては、聾者であっても、この耳あきの世界に適應する以外に途はない。したがって生きとし生ける者としては、聾者であっても、この耳あきの世界に適應する以外に途はない。——と述べている。

### (7) 重複

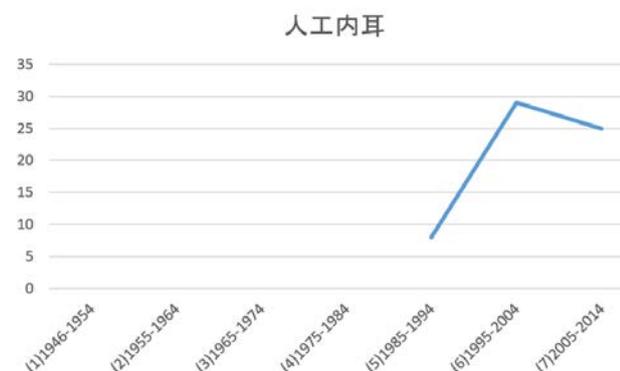
「重複」の初出は、1963年(昭和38)7月号通巻148号の「今月の言葉 重複障害児に思う」である。(2)で2、(3)で20、(4)で17、(5)で18、(6)で10、(7)で12、全体で79の出現数である。



## (8) 人工内耳

「人工内耳」の初出は、1990年(平成2)12月号の「子どもの人工内耳 大沼直紀」である。フランスでの聴覚障害児の人工内耳の症例報告で、この時、日本では成人60名で子どもに対する適応はまだであると報告されている。

人工内耳は、(5)で8、(6)で29、(7)で25、全体で62回の出現数である。人工内耳の埋め込み手術は、1985年(昭和60)に日本初の植え込み手術が行われ、1994年(平成6)4月より健康保険の適用となった。



## 4 おわりに

今回は、頻出語の検討にとどまった。次の課題として「相関関係」も検討したい。

-----

### 【資料】

聾教育研究会『「聴覚障害」誌総目次』

平成26年8月25日

KH Coder

<http://khc.sourceforge.net/>